平成３０年度　岡山県立勝間田高等学校　学校評価書

１．自己評価について「平成３０年度の学校経営目標毎の評価」

（１）経営目標「基礎学力の向上」について

「ユニバーサルデザインを意識した授業改善の取組」をテーマにして公開授業および研究会（6 月 11 日）を実施した。２年間の取組の成果として、学校自己評価アンケート(生徒 302 名回答)は次のような変化があった。

「学校は安心して生活ができる場」　63.8%(H29)→72.2% (H30)

「学校は落ち着いて授業が受けられる場」56.7% (H29)→65.6% (H30)

「わかりやすい授業が多い」　61.1% (H29)→66.6% (H30)

教員の実感として、本研修（公開授業および研究会）を通して教員の生徒に対する関わり方が変容し、その結果として学校全体の落ち着きが生まれたと思えるものになった。

（２）経営目標「望ましい生活習慣の確立」について

・問題行動による特別指導件数は 78 件（前年 55 件）と増加した。内訳として「その他の行為」に分類される非常識行為（屋上にでる、文化祭展示物破損等）や交通に関する問題行動が増えている。

・特別指導が増加したが、いじめ、暴力行為などの重大な問題行動はなかった。

「自分は、社会のルールやマナーが守れている」85.9%(H29)→87%(H30)

「先生は、社会のルール・マナー、学校で守るべきことについて指導している」

71.5%(H29)→82.0%(H30)

・特別指導は定着し、実施後には指導の効果があるが、たび重なる軽微な違反（服装、頭髪等）のレベル指導には課題がある。勝間田スタンドードに則したレベル指導の運用について改善を検討する。

・保健室利用者数は 696 件（前年比－117 件)。生徒の健康管理の観点から「生活習慣の改善」は次年度以降も継続すべき取組事項と捉えている。

（３）経営目標「将来像をもたせる」について

・キャリア教育の取組として、総合学科１年生工場見学、「ジョブフェア in 勝間田高校」、中長期インターンシップ等、新規事業を実施した。特に「ジョブフェア in 勝間田高校」は５０社の企業に来校いただき、ブース形式で２学年対象の企業説明会を実施し、生徒が主体的に企業担当者から話を聞く様子が伺えた。

・県指定高校パワーアップ事業「森林資源を活用した地域振興を担う人材の育成」において人材、地域資源を活用した実践を蓄積した（３年目)。特に成果発表の担当学年であった３年生のそれぞれの自覚の高揚や学習姿勢の成長があった。

（４）その他

・「活力ある職場づくり～健康で生き生きと働くことのできる職場を目指して～」組織マネジメント会議（ＳＷＯＴ、取組の重点化）の実施（３年目)。

教員アンケート

「全教職員が一致協力した指導体制で社会のルールやマナー、学校生活において守ること

を指導している」　72.1%(H29)→89.6%(H30)

「この学校で教育することにより、生徒は充実感や満足感を持つことができる」

71.4%(H29)→76.1%(H30)

・特別な配慮の必要な生徒に対して通級指導を開始し、保護者会の開催（3 回）、教員研修の実施など担当者を中心とした取組が機能的に実施された。

２．学校関係者評価

（１）学校評議員会

【開催日】第１回（6 月 28 日）第２回（11 月 26 日）、第３回（3 月 5 日）

【委員】

小山　京子（美作大学　准教授　服飾・福祉）

福島　薫　（勝間田高等学校ＰＴＡ代表）

安東　章治（元美作市議会議員）

喜井　啓　（勝英農業普及指導センター総括副参事）

長船　忠　（勝央町役場総務部総括参事）

a) 学校広報について、様々な魅力的な取組をしているが外部に伝えることについては課題があり、ホームページやオープンスクールの有効な活用、説明会での伝え方等さらに趣向を凝らすことができないかという助言があった。

b) グリーン環境科の教育について、森林と園芸分野の教育がどのように行われているかという質問があり、総合学科再編後の専門教育が後退することなく推進されることを望むという助言があった。

c) ３年目の取り組みである岡山創生高校パワーアップ事業「森林資源を活用した地域振興を担う人材の育成」について、“ひのきチップ”の製品化や地域学習の取り組み、そして次年度以降も本実践の蓄積を教育に生かすよう助言があった。

d) 就職試験の内容について質問があり、試験対策として基礎学力の伸長や文章を書く力の育成、面接の対策などについて助言があった。

（２）学校推進協議会

【開催日】第１回：平成 30 年 12 月 5 日

【委員】

会長　水嶋　淳治（勝央町町長）

顧問　渡邊　吉幸（岡山県議会議員）

顧問　中島　章　（勝央町教育長）

顧問　光井　一恵（勝央中学校長）他　計３０名

【議題・報告】

（報告）「ドラゴンフルーツジャムの開発」食品科学科３年生

（報告）「栗味噌の開発（味噌汁の試食）」食品科学科

（意見交換）「本校の教育推進について～地域とともにある学校づくり～」

（意見交換）「勝央タウンキャンパス構想について」

冒頭に会長より、「子どもの数が減少する中で、いつかは再編という時が来るかもしれな

いが、H40 年までの中間点でどれだけ学校のニーズを高めておれるかということが大切であり、勝間田高校の発展のために委員が学校の魅力化に協力しなければならない。次年度から、県北で初の総合学科というかたちになるので、地域との連携を主題に置きながら、子供たちがいろいろな能力を身に着けて社会に出ていけるように、また、勝間田高校が未来永劫存続していけるよう御協力いただきたい。」という御挨拶があった。続いて、協議題に従い意見交換を行った。地域連携、小中高などの学校連携、家庭教育と学校教育の役割分担、学校広報等の課題について、勝央町教育関係者、地元代表者から多方面にわたる意見が寄せられた。

３．学校自己評価アンケート（別紙２参照）

生徒アンケート２０項目の内、プラス評価の上位３項目は次の通りである。「自分は社会のルールやマナーが守れている」87%「先生は社会のルールやマナー、学校で守ることについて指導している」82%「学校は進路決定に向けて充実した指導をしてくれる」80.3%

保護者アンケートでは、「学校は安心して生活できる場」95.6%、「社会のルールやマナーが守れている」94.2%、「行事が活発になってきている」89.6%が上位３項目、教員アンケートでは、「先生は生徒からの相談によくのっている」97.9%、「交通安全など安全教育の指導に力をいれている」93.8%、「学校全体としてわかりやすい授業をしている」93.3%が上位であった。

４．まとめ

本年度を概観したところ、ユニバーサルデザインの視点に立つ授業改善の取組が２年目を迎えたことや、ソーシャルスキル教育がやや進展し、生徒の学校生活の落ち着きが全体的に見られた。この点の成果は、生徒に対する教員の関わり方の変容によって、生徒が「学校は、安心して生活ができる」、「落ち着いて授業が受けられる」「わかりやすい授業が多い」と自己評価アンケートで回答するようになったことである。本年度も学校園としてやや健全な運営が継続されており、クラス経営や保護者対応で悩みを抱える機会は減り、教員の業務負担感はやや低下している。

次年度から、学科再編を実施した学年を受け入れることになるため、教員は中期的な展望をもった学校経営への参画意識をもち、地域のニーズにこたえる学校運営が求められる。

次年度課題は次のとおり。

・「勝間田スタイル（生徒指導スタンダード)」の有効な活用
・社会人基礎力の一部としての基礎学力を身につけさせる取組、工夫をさらに精緻に計画的に推進すること。
・生活習慣の改善に関する取り組みをさらに推進すること。

５．参考資料

資料　　３１年度に向けた前年度総括資料
　　学校自己評価アンケート
　　本年度の研究および成果、報告等